

第6回（仮称）富里市協働のまちづくり条例検討委員会 会議録

日 時	平成21年5月26日（火）13:30～15:45
場 所	富里市役所本庁舎3階第3会議室
出席委員	久野直衛委員長，高澤忠彦副委員長，荒野峰之委員， 齊藤栄子委員，前川恵右委員，伊藤友子委員，草野孝江委員， 渡辺信子委員，石川政江委員，佐藤征人委員， 伊井かつ子委員，森田修仁委員，小澤和子委員 （欠席2名：二上正栄委員，大木寿美子委員）
アドバイザー	千葉大学法経学部准教授 関谷 昇氏
事務局	総務部長，総務部企画課長，企画課企画調整室長， 企画課企画調整室員（2名）
傍聴者	0名

〔会議次第〕

1．開会

2．委員長あいさつ

3．議題

（1）富里市協働のまちづくり条例策定に向けて（共通認識事項）

「目的」，「経緯」について（前回会議の整理）

「課題」，「目指すべきまちの姿」，「協働の基本的な考え方」に
ついて

「言葉の定義」，「守るべきルール」，「協働の担い手とその役割」，

「実現に向けて」について

4．その他

5．閉会

〔 会議概要 〕

事務局	<p>(1) 富里市協働のまちづくり条例策定に向けて 「目的」、「経緯」について</p> <p>資料 1 により説明 (P . 1 ~ 3)</p>
久野委員長	<p>ここまでのところで , 質問やご意見等を頂戴したいと思います。</p>
A 委員	<p>ナショナル・ミニマムの意味は。</p>
事務局	<p>ナショナル・ミニムムとは , 国家が保障する最低限の生活基準ということを示しています。「ナショナル・ミニマムの達成度を上げる」というのは , 生活基準を一律に上がってきたということ表現させていただきました。ある一定の水準まであがってきた段階で , 個人の満足が一定のものではなく , それぞれの多種多様という表現をしたのですが , それぞれの価値観で , これから心の豊かさを求めていくと考えております。</p>
久野委員長	<p>言葉の意味など不明なものやご意見等ございますか。 関谷先生からポイントをお願いしたいのですが。</p>
アドバイザー	<p>1 ページの国と地方の関係が , どの自治体でも同じような状況があり , 富里市だけでなくどうしてこのような動きが出てきたのかという根本的なところ。要するに戦後 60 年ずっと国中心に行政が動いており , 先ほどのナショナル・ミニムムと言われる , 国民としての最低限の生活水準をしっかりと達成するという目標でやってきました。国の指導が , 都道府県 , 市町村へという形で進められてきました。しかし , これがここ 10 年ぐらいで大きく変わろうとしています。地域住民に即して , 地域住民が自分たちで自分たちのことを考えていこうという流</p>

<p>久野委員長</p> <p>事務局</p>	<p>れになってきています。どの自治体もこれまでのやり方を根本的に見直し,自治体独自の行政やまちづくりを考えていかななくてはならないという流れになってきています。協働のまちづくりや条例づくりを進めていく1番のベースにまず国と地方との関係の見直しがあることを押さえていただければと思います。</p> <p>2ページは,今の基本的な流れは,ナショナル・ミニマムからシビル・ミニマムへと言われています。今までは,全国どこでも同じ教育を受けられるように基本的に,国民生活として最低限のサービスが受けることができるような条件が整えられてきましたが,今日の日本社会の水準では,ある程度達成されてきました。今求められているのは,それを踏まえた上で,もっと住民に即したサービスのあり方があり,これを個別具体的に考えていけるような環境をつくっていかなくてはなりません。地方分権を進め,地域で抱えている問題をその地域で解決していくという流れになり,地域住民に即したサービスのあり方を考えるのが,シビル・ミニマムという考え方です。そういう体制をつくっていかうというのが,協働のまちづくりが出てきたという背景です。</p> <p>従来の一律のサービスの維持も市民の力がないと立ち向かえない部分もあるというお話がありましたが,この部分をしっかりと考えていかななくてはならない。関谷先生からのお話もありましたが,多様な価値観やニーズに対して,柔軟に対応していくことも市民参画や,行政と交流,協働していくことがこれから重要になってくると思います。</p> <p>それでは,次の項目に進めさせていただきたいと思います。</p> <p>「課題」,「目指すべきまちの姿」,「協働の基本的な考え方」について</p> <p>資料1により説明(P.4~7)</p>
-------------------------	---

<p>久野委員長</p>	<p>4ページは、委員のみなさんに現場からの率直な問題、課題をあげていただいたもので、それを受け5ページに「環境づくり」、「人づくり」、「仕組みづくり」という3つのキーワードとして挙げられています。ご意見や質問を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>B 委員</p>	<p>4ページですが、委員のみなさんから出されたものをわかりやすく整理された結果だと思えます。これは、現時点での整理であって、今後、論議していく過程で「環境づくり」、「人づくり」が一緒になってしまう場合もあるし、3つ一緒になる場合もありえます。したがって、今の段階では、資料番号で分類され、一人ひとりの委員の発言が一つのカテゴリーにわけていただいていると思いますが、これからは、ダブってくる可能性も十分にあるので、柔軟に対応していただきたいと思えます。</p>
<p>C 委員</p>	<p>パブリックコメントや会議が重ねられていく中で、補完や整理されていくと思えます。</p> <p>区長会から推薦されていますが、先日、役員会があり、情報を流して欲しいと言うご意見と我々の意見も反映させてもらいたいということで5名の役員による委員会を構成いたしました。私としては、近い将来、議会や自治会や市民全体に関係してくることなので、情報を正確に流し、地ならしをしていきたいと思えます。その都度、ご意見を述べさせていただきたいと思えますので、ご承知おきいただけますようお願いいたします。</p>
<p>久野委員長</p>	<p>みなさんもいろいろな団体に所属されていますので、C委員のようにオープンにし、いろいろな方の意見を聞くことも大切かと思えます。その中で、こういう疑問や意見が出ているということがあれば、教えていただければと思います。</p> <p>本日、他市の事例ということで、参考資料が配布されていま</p>

<p>アドバイザー</p>	<p>すが、先生から紹介していただきたいと思います。</p> <p>先ほど出た「環境づくり」、「人づくり」、「仕組みづくり」は、協働のまちづくりや条例を考えていくにあたり暫定的な視点でいいかと思います。3つの柱がありますが、今後違う角度から整理したほうがわかりやすいのではないかというのが出てきたら柔軟に検討していけばいいと思います。</p> <p>前回までこの委員会で検討してきたことは、資料2にある様々な問題や課題です。それぞれの立場、分野、領域によっていろいろな視点があり、いろいろなことに関わっています。何を意味しているのかということ協働のまちづくりは、いろいろな分野が関わってくるような横串のようなイメージなんです。そういう視点を持ちつつ、個々の問題をどういう環境や仕組みをつくることで個別具体的な問題を克服していくことにつながるのかという視点になっていくと思います。</p> <p>資料2は、住民側から見た一つの問題整理であり、課題整理です。今までどういうことをしてきたのかというのを洗い出し、どういう長所、短所があるのかということを確認する資料で、資料3は、行政側から見た整理です。行政としては、協働のまちづくりに関するこれをこれまでどういうことをやってきたのか、これまでに中には、どういう問題があり、今現在、どういう課題があるのかが整理されています。今後いろいろな人たちと話をしていくと、どうして協働なんだと言う声が出てくると思います。これまで住民サイド、行政サイドでこれまでやってきた長所の部分を生かしていくために協働が必要で、これまでやってきた中で、双方が抱えてきていた問題を克服していくために協働が必要なんだという位置づけになっていることを改めて確認しておかないと、各方面と話しをいくときに必ずたち戻ってしまいます。トータルな位置づけを改めて確認する必要があります。</p> <p>今回、一つの事例として、先日まで携わっていた 町での協働のまちづくりについての取り組みを行政職員と公募委員</p>
---------------	---

<p>D 委員</p> <p>アドバイザー</p>	<p>の方々が一緒になって議論する委員会があり、3月に推進計画を町長に提出しました。その中で使用した図を参考で出させていただいたのですが、これが協働の位置づけです。どういう図かというところ、対応する既存の取り組みとして住民サイドでされていることが、住民の協働の欄に、行政としてやってきたことが町の事業で整理しています。どういうことをやってきたのかを洗い出し、長所を生かしていき、短所を克服していくのかを議論し、協働の観点からの課題。なぜ協働が必要なのかを住民サイドと行政サイドと両方の視点から整理したものです。このまとめを踏まえ、町では、条例だけでなく、いろいろな制度や仕組みをつくる計画を作りました。地域住民が地域や行政過程に参加、参画していく入り口が多様であればあるほど、地域住民は自分なりの立場、視点、関心から入っていきます。入り口をたくさん作ろうというのが、協働のまちづくりのポイントだと思います。</p> <p>もう一つ、町での特徴は、住民主導で動いたのですが、住民の発言が町の事業と結びついてこないという整理を行いました。行政は、基本的に総合計画を基に動いています。行政側においても、協働の動きが対応しているということもこの図で示されています。</p> <p>これを全部やるという考え方もありますし、ポイントを絞ってやっていくということもあります。この委員会の議論次第になると思いますが、こういう形での課題を整理する仕方があり、協働との結び付け方があることを参考程度にお示しさせていただきました。</p> <p>「協働の観点からの課題」の住民の欄に「整っていない」という言葉があります。住民の視点から見てその表現は、協働という言葉と連動しないような気がします。</p> <p>それは表現上の問題があると思いますが、基本的な主旨は、</p>
---------------------------	---

D 委員	<p>住民が考えていることです。ここでの表現は他人事のように客観的な書き方になっていますが、住民自身として、住民側の課題があるということを示しています。</p> <p>協働という意味を深く理解しようとする、この言葉を使うのが、非常に不適切に感じました。</p>
E 委員	<p>あくまでも参考資料ということですので、自分たちのこれからしようとしていることとは違うなと思いますが。町方式といっても、私たちは関与していないので。これから検討していく内容が入っているかもしれませんが、私たちは私たちでやっっていこうという気持ちが強いです。</p>
F 委員	<p>私は、逆に住民の声が、私たちの提出したものが入っていると思いました。形式は考えなくてはいけないですが、根本的にはこのような形を最終的に望んでいるのかなと思います。</p>
G 委員	<p>これ見るとわかりやすいです。1つ疑問に思ったのは、住民の声とは懇談会を開催し、住民の意見を聞いたのでしょうか。それともアンケートか何か。</p>
久野委員長	<p>懇談会での意見となっているので、我々と違う立場の方たちだと思います。</p>
B 委員	<p>この表が非常にいいなと思うのが、住民の協働と町の事業が並べて比較できることです。私たち市民から見ると町の事業が非常に見にくい。ただ、この「まちづくり推進計画個別具体的な施策の実行」の欄が、つながりがないと思いますが、表現するために省略されたのでしょうか。</p>
アドバイザー	<p>これは、あくまでも協働の位置づけをした図です。「なぜ協働が必要なのか」、「どういう位置づけになっているのか」とい</p>

	<p>う声がかかなり大きかったので、一目で見れるような図で示しました。具体的なものについては、推進計画の中に書かれています。先ほど内容が、同じだという意見と違うという意見がありました。これは、町の方々が考えたものです。富里市では、資料2・3で進めているので、内容をこれと全く同じにする必要はないし、富里市のものを作ればいいわけです。ただ、協働がどのような形で位置づけられているのかというポイントと、住民サイドが考えることと行政がすでに行っていることが、ある程度リンクしてきていることを考えないとただ、それだけで終わってしまいます。両方が結びついて、意識しながら富里市の課題整理とこれから何が必要なのかということ整理していければいいと思います。</p>
久野委員長	<p>私の印象を述べさせていただきたいのですが、ゴールイメージに異論はなく、そのための推進計画です。私たちの条例も類似した項目が出てくると思います。ただ、ここに至るステップが、私たちと根本的に違うなと思いました。まず住民の声があり、現在の政策、ギャップの確認、方向性を求めたというステップだと思います。ですから、政策の課題整理、方向性が非常にスマートな印象を受けます。</p> <p>D委員の疑問が、どこから生まれてくるかということ、富里の委員は、担い手である人、担い手になりたいと願っている人たちです。現実の活動から実際のギャップということで、課題が出てきたと思います。要望ベースで他人事のような感じがするのは鋭いなと思いました。委員の性質が町と違うので、まとめ方が違うのかなと感じました。</p>
A委員	<p>先生がおっしゃったのは、富里市で作るならこういう段取りもあるということですね。言葉一つをとるのではなく、こういう流れの中で作られるという一つの例として出てきたのだと思いますが、それでよろしいのですよね。</p>

アドバイザー	<p>そうです。完璧に整理したということではないのですが、言葉一つ一つをとれば、不備もあると思います。あくまでも全体の整理の仕方ということで参考にさせていただければと思います。</p> <p>住民としてこういうことをしたいという主体性はありますが、同時に考えなくてはいけないのは、そういう主体性を持っている住民とそれ以上に無関心な住民、行政依存の住民もたくさんいます。それも踏まえて、この市にどういう仕組みがあったらいいのかなということを考えていかない。やる気のある人の視点で考えてしまうと、実際現場で衝突などが起きてしまいます。</p>
D 委員	<p>町の方はどう思っているのでしょうか。「整っていない」と思っているだけなのか。協働としての取り組みをしたいと思っているのか。</p>
アドバイザー	<p>これは他人事で言っているわけではなくて、これから協働をやっているという観点に立ったときにどういう問題があったのかを書いただけで、誰かにやってくれということでまとめたわけではありません。</p>
事務局	<p>町は、総合計画の体系からこのような位置づけをしていると思います。富里市にも総合計画がありますが、今、次期総合計画の策定に向け見直しの作業をしています。総合計画を策定するという目的で、住民意識調査をさせていただきました。その結果は、広報でお知らせする予定です。</p> <p>次に行政の視点からということで資料3を示めさせていただきました。町とは整理の仕方は違います。現在は、みなさんからいただいたものと行政側と2つの構成になっていますが、ある程度一致している部分もございます。資料3の1ページは、今まで行政が行った結果です。2ページ以降は、行政側から見た課題で、各課から挙げられたものを示しています。</p>

	<p>双方の視点から、課題を整理していかなくてはいけないと思います。</p>
久野委員長	<p style="text-align: center;">休憩（ 14：45～14：55 ）</p> <p>後半を始める前に前半をまとめる意味で、関谷先生からコメントをいただきたいと思います。</p>
アドバイザー	<p>それぞれの立場、視点からこれまでやってきたことを整理し、どういうところに問題や課題があり、克服のために何をしていかななくてはいけないのかをある程度、交通整理をしていきながら結びつけていく必要があります、この委員会で議論していくポイントになっていきます。</p> <p>住民サイドからすると「人づくり」や「環境づくり」などの課題がありました。資料3の行政が行っていることで、例えば、公募委員を募ることは、住民参画の門戸を開いている。けれども、参画できる場がないという住民サイドとの意見のズレがあります。これをどのように考えていくのかということが、大きなポイントになってきます。それぞれ、住民サイドでどういう意見があり、行政側で行っている事業にどういういいところがあり、どういうところに限界や問題があるのか、何がもっと必要なかを照らし合わせながら今後、考えていくことになると思います。資料2で示されている課題が、行政の取り組みにどう対応していて、どこがまかなえていて、どこが不足しているのかを各委員の視点から出されてみると問題がクリアになってくると思います。</p> <p>あと、住民側の課題の整理の仕方ですが、地域住民には、関心を持っている方、無関心な方、議員がやるべきで市民がやるべきではないと断固としておっしゃる方などいろいろな方がいます。一つの視点だけで課題を整理していくと、限りが出てくると思いますし、通用する範囲も限定されてしまうので、いろいろな人がいることを常に頭に入れながら、課題整理や今後</p>

<p>久野委員長</p>	<p>何が必要なのかを位置づけていくことが必要になってくると 思います。富里市として、現実にはいろいろなことがあり、みな さんの視点からどういう方がいるのかは、地域に即した形でご 存知だと思いますので、その辺を踏まえながら、資料2・3を 結びつけ、対比しながら整理していけるかどうかポイントに なっていくと思います。その辺を踏まえただうえで、言葉の定義 など、その後の議論につながっていくと思います。</p> <p>資料3については、委員会としてギャップ等を課題整理して いきたいと思います。</p> <p>それでは、3つめの項目について少し具体的な検討に入って いきたいと思います。</p> <p>「言葉の定義」、「守るべきルール」、「協働の担い手とその 役割」、「実現に向けて」について</p>
<p>事務局</p>	<p>資料1により説明（P.7～8）</p>
<p>久野委員長</p>	<p>事務局で案を提示していただきましたが、これは決定項目で はございません。これから7回目以降具体的に考えていくよう になっていくようになるかと思っています。</p> <p>まず、言葉の定義で5項目挙げられています。私たちの中 でもまだあいまいな部分もありますが、こういう言葉も検討する べきではなかろうかというものがあれば、ご発言をいただきたい のですが。</p>
<p>G委員</p>	<p>今言われているのは、ここで定義する言葉の候補をあげると いう意味ですね。あくまでも候補を挙げるにあたって、資料 2のキーワードにある言葉を候補としてあげるわけにはいか ないのでしょうか。</p>
<p>久野委員長</p>	<p>当然、今出ている5つの言葉で文書は作れません。「市民」、</p>

	<p>「市民活動団体」,「行政」は,主語として使うと思いますが。今,G委員から挙げていただいたものは,目標や課題のキーワードかと思います。</p> <p>8ページの協働のまちづくりのルールとありますが,「目的の共有」,「相互理解」,「情報の共有」など,3項目挙げられていますが,3つで足りるとは思えません。お金の問題をどうするのかということも出てくるとと思います。挙げられた言葉について疑問を感じればそれでもかまいませんので,ご発言をお願いします。</p>
C委員	<p>漠然としていて,委員長がおっしゃったことをまとめきれないでいるのが実態だと思います。協働は,日本全国でやられていますが,全く同じものでなくてはならないものでもなく,自分のところに即した形でまとめていけばいい。多種多様な形でまとまっているが,ある部分では,共通の部分もあります。言葉の定義やルールもそうですが,他の市町村のものを比較できる資料として示していただいて,その中から考えていったほうがまとまりも早いと思います。</p>
久野委員長	<p>7ページの「言葉の定義」,「守るべきルール」,「協働の担い手とその役割」,「実現に向けて」について,今後,私たちが話し合いを進めていく一つのステップの流れになると思います。その中のポイントになると思われる言葉を挙げて,審議してくださいということかと思います。次回以降これについてもっと深めたご意見をいただきたいと思います。</p>
D委員	<p>「実現に向けて」と「言葉の定義」から入っていくと,「環境づくり」,「人づくり」,「仕組みづくり」は,「協働のまち」を実現するのか。「まちづくり」を実現するのか。「協働」という言葉の持つ意味と「協働のまちづくり」の実現ということだったので,その中に「環境づくり」,「人づくり」,「仕組みづくり」が書かれていますが,この言葉の定義に深く入ると,「協</p>

C 委員	<p>働のまち」という言葉をつくるのか。</p> <p>私なりに理解しているのは、昔からの行政のやり方は通用しなくなり、財政上今のやり方を続けても自治体財政がもたない。したがって行政だけでは市の運営ができないので、市民の力を少しでもお借りしたい。市民が自分たちの意思で参画していけるような形にしたい。市民の意識を変えながら、やっていこうということだと受け止めています。</p> <p>私たちは、自主的、自発的意思のもと、参画できる方法をまとめていくのが重要なのかなと理解しています。</p>
A 委員	<p>「言葉の定義」がよくわからなかったんですが、目を通していくと、挙げられている言葉が、どういう意味づけなのかわかってきました。この言葉から一つ選べと言うことではないですよ。該当しそうなものは、今、挙げられているものでいいのではないかと思います。</p>
H 委員	<p>言葉の定義は、「市民」富里に住むもの。「行政」富里市役所ということでもいいのではないのでしょうか。「まちづくり」市民が行っている自主的な活動など。「協働」市民と行政が問題解決していく方策とか。あんまり難しく考えすぎているように感じますが。あくまでも定義なので。</p>
C 委員	<p>そういうものをまとめやすいように提示していただきたい。例えば、市民の範囲です。例えば、富里に住民票を有する者だけとする場合もあるし、在勤・在学の者が含まれる場合もある。それは、どういうことを期待するかによって変わってくると思います。選択肢は、いくつかに決まっています。いくつかに決められている選択肢を出さないことには進まないし、そのほかの意見があれば、議論すればいいだけだと思います。</p>
I 委員	<p>とても難しいことをやっているような気がします。難しく進</p>

	<p>めずに富里には何が必要なのかを早く出し,今までやっていたことを母体に何が足りないのか,行政は何をやってもらいたいのかを示していただかないと。言葉の定義などではなく,早く具体的に話し合いたいと思います。私たちのやるべきことは,富里では何がしたいのかをみんなで出し合い,項目分けして進めないと期限内に終わらないように思います。</p>
E 委員	<p>I 委員と同意見ですが,ちゃんと計画は立ててくださっているとは思いますが,これで間に合うのかが心配です。資料は事前に配られているので,目を通してきています。実践的な話し合いをしていきたいと思います。</p>
D 委員	<p>そういう意見をどんどん出し合って,一気にまとめあげられると思いますので,今は,自分の思っていることをどんどん発言すべきだと思います。</p>
事務局	<p>共通認識事項ということで議論していただいておりますが,これを提案させていただいたのは,これを条例の素案にするということです。これができると,目には見えませんが,条例の6割ぐらいは固まってくると思います。前回あたりから具体的な中身に入っているので,まだ概観的なところで,委員のみなさまは実感としてないかもしれません。</p> <p>資料1について事務局で案の提示させていただき,かなり修正を入れています。これは,絶えず修正をしていきたいと思えます。提言ができるまでは,完成系ではございません。私どもは,案を提示させていただいているので,みなさまの言葉で考えていただきたいと思えます。</p> <p>今後についてですが,今まで委員のみなさまから挙げていただいたものを3つの課題としてあげさせていただきました。課題に対して,どうすれば解決できるのかというルールづくり,また具体的な施策も議論されてくると思います。しばらくは,概観的な話にはなってしまいますが,ご発言いただいたものに</p>

<p>久野委員長</p>	<p>ついて案で提示していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>確かにあと6回で具体的になるのか心配なんです。先ほど今ある資産を使って、富里市をどうしたいのかを話し合えばというご発言があったのですが、そういうことだと思います。次回以降、より具体的に話し合いをしていく糸口が見えたと思いました。</p>
<p>J委員</p>	<p>協働がどういうことなのか、条例にするというのは大きな仕事ではないかというのが、重荷になっていて発言もできず、窮屈な思いをしていました。いろいろな委員とお話をさせていただいたり、町の事例を見せていただき、ようやく協働という意味がわかりかけているところです。あと残りの6回でみなさんが思っているところにいけるようために、こういう段階も今は必要なのかなと思います。</p>
<p>アドバイザー</p>	<p>日程的には心配していません。ここまでいいステップで進められていると思います。</p> <p>今、2つの流れで進んでいます。1つは、資料2のこれまでみなさんで意見を話し合ってきたものと行政サイドの資料3です。この両方を踏まえ、どこに問題があるのかということ住民サイドは、ある程度見えてきています。行政も事業としておこなっているものもあり、住民が抱える問題を行政が行っている事業でまかなえているのかどうかを考えていくことが今後の流れになってくると思います。こういう部分に問題があるとおっしゃっていただいてもいいし、こういう状況だから富里市では、こうしたほうがいい、こういう制度や仕組みを作ったほうがいい、こういう試みをしたらいいなどみなさんで出し合っていただくことにより必要なものが見えてくると思います。</p> <p>もう一つは、資料1の7・8ページにある項目です。条例を</p>

作るうえでは、形式は重要であり、必要になってきます。今後
も資料2・3を踏まえ、どういうことをやっていきたいのかを
それぞれみなさんの立場から自由に出し、ある程度は、形式的
にも整理して視点を整理していかないと条例まで結びついて
いけないので、今後2つの流れを柱に踏まえたうえで議論して
いくといいと思います。てみるのもいいと思います。

それから言葉の定義は、H委員がおっしゃったことで基本的
に済んでいる話です。どの自治体の先例をみてもそんなに大き
く変わるわけではない。ただこの定義の中に議会が入っていま
せん。これは行政の立場からは言いづらい部分で、難しいから
今回は外すという判断もあると思います。当面は、市民と行政
との関係で考え、それを協働と考えていくというのが、今のと
ころ強いです。また、定義として「市民」を考えたときに、例
えば在外のNPOや市民団体が、富里市のために何かしたいと
なったときに富里市で活動することをどう考えるのか、また、
団体に対して、富里市が助成することはいいのかどうかという
問題が出てきます。在住している人、通勤・通学している人に
限定してしまうとその人たちは協働のまちづくりからは外れ
てしまいます。そこが定義問題の論点になってくるところで
す。「まちづくり」は、100人いれば、100とおりあるの
で、あまりまちづくりの定義にはこだわらなくてもいいのかな
というのが率直な印象です。「協働」は、簡単に言うと、手段
なのか目的なのかというのがあると思います。私の個人的な意
見としては、手段だと思っています。手段なのか目的なのかが、
あいまいな自治体が多いです。ですから、その辺を明確にして
おくのが一つの論点としてあると思います。要するに協働は手
段であって、そういう手段を通じてそれぞれの人たちがそれぞ
れの立場でそれぞれの実現させたいことを実現させるという
位置づけがありえるのかなというのが私の意見ですが、その辺
を今後みなさんで議論していただくようになると思います。

実現に向けてとありますが、協働を実現することなのか協働
はあくまでも手段であってその手段を通じて実現するのかと

	<p>ということがあると思います。ここで議論の射程を限定しておいたほうが良いと思いました。限定した上で、それぞれの立場で参画し、それぞれの人脈でいろいろ目的を実現させていくことができるような手段や手法、環境を整えるというのが、協働のまちづくりの環境整備という話です。手段、手法、環境がいろんな形であります。それをこういう環境があるといいとかこういう市民参画をする環境があるといいというのをみなさんで出し合ってまとめていくというのが求められているものだと思います。そのように整理されたうえで今後自由に意見を出し合っていけるといいと思います。</p>
D 委員	<p>疑問に思うことは、「協働のまちづくりを作る」ととれないかなということ、言葉が重複しているということなんです。要するに協働のまちを実現するのか、ともに働くまちを作るっていうのを実現するのか協働のまちづくりを作るってとれませんかということです。</p>
久野委員長	<p>それでは時間になりましたので、今日はここで終了させていただきます。</p>